

第100回研究報告

Turing Award, Gödel Prize を受賞する為に必要な最低限の知識について

神奈川 太郎

2015 年 4 月 16 日

1 概略

ゼミ資料の内容を数行で書く。どんな疑問について、どんな所に着眼して、どんな検討をし、どんな結論を得たのか。

```
{\small
\bibliographystyle{ieice.bst}
\bibliography{template}
}
```

2 準備

先生の授業の様に前回の復習から始める。予備知識を復習する。“連とは何か” など。

を tex ファイル中に書いた場所に参考文献が表示される。但し、`pbibtex` を行う (`makefile` 中のコメントアウトを取り除く) のに、本文中に上記の `\bibliographystyle{~}` を記さない、または、本文中で参照 (`\cite{~}`) を行わない、ということをする、コンパイルエラーになる (この `makefile`, 若しくは tex ファイルが悪いだけで、良い方法があるかもしれないので、解決法をご存知の方は、教えて下さい)。

r201470039hs at kanagawa-u.ac.jp

3 前回までの経緯, 問題点

何が問題となっていたかを概説する。

4 本論

加減乗除を理解している必要がある。

5 まとめ, 今後の課題

因数分解を理解する予定。

参考文献

- [1] 原田崇司, 田中賢, 三河賢治, “決定木を用いた Run-Based Trie の探索法,” 電子情報通信学会ソサイエティ大会講演論文集, sep 2014.

6 チェックリスト

- $5 + 3 = ?$
- $5 \times 5 = ?$

A 参考文献の書き方

参考文献の書く為には、`makefile` 中の `pbibtex` 行のコメントアウト (#) を外し、本文中参照すれば良い。例えば、tex ファイル中に `\cite{2014RbtHARADA}` (2014RbtHARADA は、`template.bib` 中で論文 [1] を参照する為に対応付けたラベルである) と書けば、

[1]

の様に参考文献に対応する番号を表示する。また、